

足元からはじめる環境教育

土岐まゆみ（藤原町立立田小学校） 林 辰久（名張市立梅が丘小学校）
一見 慶子（四日市市立中部中学校） 鈴木 理子（県立四日市農芸高等学校）
久保倉民彦（三重県総合教育センター） 森井 信行（三重県総合教育センター）
渡辺 祐治（三重県総合教育センター） 林 芳生（三重県総合教育センター）
本原 光喜（三重県総合教育センター）

1 研究の趣旨

21世紀においては、環境教育はますます重要な課題になってくる。子どもたちが環境について考え、環境を意識して行動できる人間になるためには、自分たちをとり巻く自然と直接触れ合って自然の豊かさを体験したり、自分たちの日常生活に直接関わる環境問題に積極的に取り組んだりすることで、環境を大切にする意義やよりよい環境をつくることのすばらしさを体験的に学んでいく必要がある。

そこで、本研究では「身近な自然環境や環境問題に着目して積極的に取り組む環境教育」に重点を置き、学校教育の中でどのように環境教育を進めていくかについて研究を行った。

2 研究の内容

身近な環境に着目して環境教育を進める方法として、二つの視点から研究を行った。一つは、子どもたちが身近な自然の豊かさや素晴らしさを体験することで、環境を大切にすることを育てたり環境保全の意義を学習する方法について研究した。具体的には、田んぼ、川、海、町の中の小さな自然としての公園に着目して生物調査や環境調査と施設見学を行った。

もう一つは、日常生活に関連した環境問題を体験することで、自分たちのライフスタイルの見直しや資源循環型社会の構築の必要性を学習する方法について研究した。具体的には、ごみ処理問題とペットボトルのリサイクルについて聞き取り調査を行った。

研究内容の項目	調査場所または見学施設
田んぼの中を見よう 海の中を見よう 川の中を見よう（上流、中流、下流） 町の中の小さな自然を見よう ごみの分別回収について調べよう 不燃物ごみ処理について調べよう ペットボトルのリサイクルについて調べよう	津市浜見町内の水田 岩田川の汽水域と阿漕浦の砂浜 雲出川（上・下流）と安濃川（中流） 津市東古河町の古河公園 津市環境管理課 白銀環境清掃センター よのペットボトルリサイクル株式会社

3 研究のまとめ

身近な自然として、田んぼ、川、海、公園に着目して生物調査や環境調査を行ったが、普段の生活の中では何気なく見過ごしているこれらの環境の中には多様な動物や植物が存在していた。したがって、学校周辺の身近な自然環境を利用して、子どもたちに自然の豊かさを十分に体験させることができると考えられる。

一方、日常生活に関連した環境問題としてごみ処理問題とペットボトルのリサイクルについて、津市の環境管理課の担当者から話を聞いたり不燃物ごみの処分場やリサイクル工場の見学を行った。その中から、ごみ処理問題とリサイクルの現状や問題点について多くの知見を得ることができ、自分たちの生活の見直しや意識改革の必要性を痛感した。

今後は、この研究で得られた多くの情報や成果をもとに、環境教育の素材としての教材化や環境教育での効果的な利用方法について検討していく必要がある。